

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人石狩友愛福祉会
事業所名	特別養護老人ホーム石狩希久の園
事業所の所在地	〒061-3481 石狩市八幡町高岡27番地9
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0177600061

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）	
1回目	（ウ）認知症の理解
2回目	（オ）高齢者の感染症の予防、発生時の対応
3回目	（カ）介護従事者ができる口腔機能の向上のためのケアと食事のケア
4回目	（ク）介護従事者ができる薬剤管理（誤薬の予防、残薬の管理など）
開催日時	
1回目	令和5年10月5日（木）18時00分～20時00分
2回目	令和5年10月19日（木）18時00分～20時00分
3回目	令和5年11月2日（木）18時00分～20時00分
4回目	令和5年11月9日（木）18時00分～20時00分
開催場所	
社会福祉法人瓔珞会 デイサービスセンターばんなぐろホールにて	
参加者の人数、職種及び参加事業所種別	
1回目	21名（介護系職員13名 相談職系職員6名 その他職種2名）
2回目	21名（介護系職員12名 相談職系職員4名 その他職員5名）
3回目	18名（介護系職員5名 相談職系職員6名 その他職員7名）
4回目	20名（介護系職員11名 相談職系職員5名 その他職員4名）

研修内容

【第1回目】

「認知症の理解と認知症による BPSD への対応を考える」

(目的) 認知症の理解を復習しながら、実際の BPSD 事例から対応方法などを、グループワークにて協議し、様々な症状に対応できるスキルを身に付けることができる。

(内容・講師)

講義Ⅰ「認知症の正しい理解」

講師：石狩病院 認知症認定看護師 久保倉晶子

講義Ⅱ「多様な認知症と BPSD 症状の理解」

講師：石狩病院 認知症認定看護師 久保倉晶子

事例検討：「多様な認知症における B P S D 症状への対応について(グループワーク)」

講師：石狩病院 認知症認定看護師 久保倉晶子

【第2回目】

「新型コロナウイルス、インフルエンザを含む様々な感染症の理解を深め、感染予防対策を理解することができる。」

(目的) 改めて感染症を知ること、感染症標準予防策(スタンダードプリコーション)を理解し、実践できること、様々な環境下での感染症対策について、事例検討で環境別に感染対策を考え実践するスキルを身に付けること

(内容)

講義Ⅰ「感染症の正しい理解」

講師：札幌溪仁会リハビリテーション病院 感染管理認定看護師 浅野紳次郎

講義Ⅱ「コロナ禍における共存した生活のすすめ」

講師：札幌溪仁会リハビリテーション病院 感染管理認定看護師 浅野紳次郎：

事例検討「環境別昇順予防策のシミュレーション(グループワーク)」

講師：札幌溪仁会リハビリテーション病院 感染管理認定看護師 浅野紳次郎

【第3回目】

「オーラルマネジメントについての大事なポイントがわかる。ムリムダのない実践テクニックを理解できる。」

(目的) 高齢者、障害者における口腔ケアの重要性、オーラルマネジメントの考え方、ムリムダのない口腔ケアの基本テクニックを知ることができる。

(内容)

講義Ⅰ「口腔内の疾患と口腔ケアのポイント」

講師：北海道医療大学在宅歯科診療所 歯科医師 金本路

講義Ⅱ「誤嚥性肺炎が気になるなら口と喉を鍛えましょう」

講師：北海道医療大学在宅歯科診療所 歯科医師 飯田貴俊

事例検討「ムリムダの無い口腔ケアの基本的テクニック(実技+グループワーク)」

講師：北海道医療大学在宅歯科診療所 歯科医師 金本路

【第4回目】

「介護職員ができる服薬管理と服薬介助についてを理解し、配薬与薬することの意味を理解し、服薬介助のテクニック、注意事項を学び、誤薬事故を未然に防ぐための知識を身に着けることができる。」

(目的) 医療ニーズが高くなっている介護現場において、多剤服用されているご利用者は増えている。服薬管理と服薬介助は介護職にとっても重要な介護の1つになってきている。そうした意味でも服薬管理、服薬介助を理解したうえで、服薬介助のテクニックと注意事項を学び、知識と技術を高めることができる。

(内容)

講義Ⅰ「医療制度の正しい理解」

講師：株式会社サンクール あしたば薬局 薬剤師 松永雅和

講義Ⅱ「薬剤にかかる料金を知り薬の価値を知る」

講師：株式会社サンクール あしたば薬局 薬剤師 松永雅和

事例検討「薬の管理～こんなときどうする（グループワーク）」

講師：株式会社サンクール あしたば薬局 薬剤師 松永雅和

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
高齢者、障がい者にとって住みやすい地域にするため、多様なサービス機関の専門性が求められている反面、サービス機関側としてはコロナ禍の余波や人材不足により専門性を高めるために学ぶ機会を獲得することが得られにくい環境となっており、サービスの質の維持が喫緊の課題となっている。こうした課題に対処した手段が地域の中では得られない状況も大きな課題の1つとして捉えている。
研修のテーマ及びねらい
地域のサービス機関に従事する介護系職員が、高齢者に多い認知症を理解しご利用者の尊厳を守るサービス提供に繋げられること、高齢者に多い多剤服薬のなか、薬の知識を得て体調管理の一助となること、高齢であっても経口から食と栄養が摂取できるように口腔内のケアの知識を得ること、アスターコロナでも安心して高齢者に関われる感染予防の知識を得ることに加え、研修会を通じ市内他事業所との情報交換を行いながら、高齢者障がい者支援の情勢を理解し、今後のケアに活かすことができることに繋がることをねらいとした。
研修成果等
1 実施前の課題解決の有無等 専門的知識を得る機会を確保することができた。サービスの質の維持向上については、参加者が各事業所に持ち帰り活かして頂きたいとお伝えし、取り組んでいただくことを期待している。また、当法人が地域連携、特に学ぶ機会の創設について先陣を切ることで、新たな研修への期待なども得られることとなった。

2 実施による成果及び効果

専門家である各講師から参加者が話を聞くだけに留まらず、グループワーク、実践デモンストラを通じて、知識を享受することができた。特に、ワークの中で講師と参加者が頻りに会話をされていたことが参加者にとっての何よりの学びになったように感じた。

各々の研修では

(第1回目)

認知症の理解と BPSD 症状への対応については、模造紙を使用し事例のご利用者を分析する所からワークをした結果、今までに感じれなかった視点に気づいた参加者が多くいたことが成果であった。また、模造紙を活用しアセスメントをしたことが様々な視点や見解を視覚化でき、さらには研修会が盛り上がる結果にもなったことは大変良い成果であった。



(第2回目)

感染予防策については、これまで取り組んできたことのブラッシュアップの機会となった参加者が多かった。また手に残るウイルスを図る機械を用いてどれだけ自身がウイルスのキャリアになっているかを知ることができたのは今後の感染対策に活かせると感じたことが成果であった。

(第3回目)

口腔内の機能、口腔ケアの重要性を知れたことに加え、嚥下の仕組みや能力を図る手段を知ることができたのは大きな成果であった。

また、嚥下能力を訪問で測定することができる技術の紹介と実践されている講師の実例を見ることができ、後日実際に活用しご利用者の嚥下能力を測定し適切な介護に繋がっているという話も聞いたことは大きな成果であった。

(第4回目)

薬の知識については、改めて制度的な背景や薬価、薬の効用などを聞くことができたうえに、具体的な事例による事例検討を通じ、それまでなかった対応方法などをグループワークすることで知ることができた様子もあり、実際に業務に活かすことができる時間になったことは大きな成果であった。

3 今後の課題

各研修科目についてはまだまだ学びたいという意見もいただき、継続することによりその分野の知識力を向上させる機会になると感じたことは成果であったが、各開催日にインフルエンザや新型コロナウイルスが流行し欠席せざるを得ない参加予定者も多数いたことは、参加したくともできない実情が浮き彫りになり、こうした研修会にいかに参加して頂ける環境を整えるかが大きな課題と感じた。また、会場も当初予定していた会場が感染症流行を鑑み使用できなくなり、急遽変更せざるを得なくなったことも1つの課題と感じ

た。対策としてオンライン参加もできるハイブリット開催にしたものの、やはり集合している参加者とオンラインの参加者の温度差を埋めることは難しく、特に実技や事例検討のワークでは盛り上がり方に大きな差を感じる結果であった。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

施設系事業所では今後も医療ニーズの高いご利用者の入所相談を受けることが予測されるため、引き続き医療職からの研修会を企画し知識や技術、新たなサービスの理解に取り組みたい。また、地域研修会として研修会を盛り上げるため、地域の有志で運営している団体を絡めた研修会を企画し、より多くの地域の従事者に参加して頂ける取り組みを行ってきたいと考えている。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

(苦労)

研修会をより多くの方へ周知する手段

講師を招聘するまでの調整

実施したい研修はあるものの、適当な講師が見つからない

WEB開催とのハイブリットで実施したが温度差を埋める手立てがうまく見つからない

(工夫)

地域の有志で構成している団体を通じた研修会の周知と参加の促進を行ったこと

これまでの人脈や様々な機会で作られるつながりを活用し講師を招聘していること

WEB開催を併用し多くの方が参加しやすい形を作っていること

グループワークの成果を画像に残す(写真撮影)することで、参加者の意気込みが多少なりとも前向きになってくれたこと。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

数年ぶりに集合研修として開催した。集合研修の方が現場職にとっては意見も可発に出て、成果物を作り上げることもでき、様々な情報交換もされており、馴染みやすい雰囲気だと改めて実感した。一方でインフルエンザやコロナウイルスの影響から欠席される方も各回多く、オンライン併用のハイブリット開催としたものの、集合とオンラインの温度差を埋めることがうまくできず、感染症を意識した研修会の開催の難しさを感じた。しかし、多様な事業所からの参加で日頃からコミュニケーションが取れている方々も、初めてコミュニケーションを取られる方も、ご自身の今のレベル(知識や技術)や事業所で取り組んでいることの是非を問う1つの機会になった様子もあり、顔が見える環境を作ることは単に研修による知識技術を得るだけに留まらない効果があることも改めて実感することができた。

企画した4回の演題については、やはり認知症に関する興味が非常に高く特にBPSDにいかに対応するかを知りたいと感じている参加者が多いと感じた。また、口腔ケアの研修ではこれからの福祉において口腔機能をいかに維持するかが重要視されていることを参加者の受講からも見受けられ、これまであまり研修されてこなかった口腔機能についての研修は重要な課目になると感じた。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人幸清会
事業所名	特別養護老人ホーム幸豊園
事業所の所在地	〒049-5332 虻田郡豊浦町字大岸 151 番地 2
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0173700089

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ケ）から選択。（ケ）の場合は具体的な内容を記載。）
1 回目～4 回目（イ）認知症の理解
開催日時
1 回目 令和5年12月9日 / 2 回目 令和6年1月20日
開催場所
1 回目 【札幌】北星学園大学及び（ZOOM 使用）リモート受講 2 回目 【札幌】札幌エルプラザ及び（ZOOM 使用）リモート受講
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
1 回目 介護事業所関係職員 26 名（会場4名 リモート22名） 介護職員26名 2 回目 介護事業所関係職員 38 名（会場13名 リモート25名） 介護職員38名
研修内容
<p>【1 回目】令和5年12月9日（土）15：10－17：10</p> <p>1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 講義・演習 15:10-17:10「新しい『アジテーション』という概念について」</p> <p>2 講師・指導者の所属職氏名 香川大学医学部精神神経医学講座 教授（認知症専門医）中村 祐氏【医師】</p> <p>認知症の人に出現する行動障害の新しい概念「アジテーション」についてアメリカと日本の情報をもとにわかりやすく説明をいただいた。昔の認知症の症状に関する資料よりも、現在周辺で起きているような症状が多く、身近な症状を解説していただくことで、分類することができた。薬物治療の可能性も含め、医師ともどのように連携していけばいいかを医学的な観点とご自身の経験から実践的なポイントについて大変わかりやすく解説していただいた。</p>

【2回目】令和6年1月20日（土）15:10-17:10

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

講義＋演習

15:10-17:10「認知症の医学的理解とパーソン・センタード・ケア」

イギリスのトムキットウッドが提唱した「パーソン・センタード・ケア」について医学的な観点とご自身の経験から実践的なポイントについて大変わかりやすく解説していただいた。また個人演習をを交え、医師の立場でどのように連携しているか、日頃の連携内容を具体的に示しながらわかりやすく解説し、理解しやすい内容の実践的な研修となった。

2 講師・指導者の所属職氏名

まつかけシニアホスピタル（愛知県）副院長（認知症専門医） 水野 裕【医師】

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題

これまでも認知症に関する理解を深め、医療関係者と連携するための知識習得のための研修を実施してきたが、まだまだ医療関係者と連携していくための介護職の意識は高まっていない（例：高圧的な言葉がある、介護職からの意見を聞いてもらえない等）のが実情であり、医療関係者も連携を必要としていることについて理解を深める必要があった。

研修のテーマ及びねらい

本研修では、『認知症の理解』のために介護職の意識や気持ちに寄り添った連携や対応を実践し、成果をあげている講師としてお2人の日本を代表する気鋭の医師に研修を依頼した。実践的なテーマ『新しい「アジテーション」という概念について』、『認知症の医学的理解とパーソン・センタード・ケア』というテーマでそれぞれ講義・演習を依頼し、介護職員が正しく医療的な側面から認知症について理解し、医療との連携のポイントを学ぶことで、連携意欲の向上につながることをねらいとした。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

参加者自身の認知症の理解が深まり、また医療とも連携する際にどのように情報共有すべきかのポイントを知識として活用できる内容ではあり、参加者の大多数が医療との連携に意欲を示し、課題解決につながる可能性が大いに示された。

2 実施による成果及び効果

1回目・2回目の参加者合計で60名以上の介護職員が参加した。それぞれが、各事業所で具体的な活動につなげていけるような明快でわかりやすい講義が実施された。

3 今後の課題

研修で得た知識をどのように実践につなげているのか、より意識を高めていくため、反復して同様の活動を継続していく必要がある。参加者がさらに医療との連携活動を広げられるような工夫も今後必要だと感じられた。また参加者数をしっかり確保していくことも事業の成果を上げていくためにも必要だと感じられた。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

北海道内外の介護医療連携に意欲的でかつ実践されている医師による教育・研修を継続していくまたテーマ選定や研修の進め方も、より理解が深まるような内容を模索していきたい。また近年どの事業所も人員が不足し、なかなか研修受講に時間をとることができなかったが、リモートという研修手段が定着しつつあり、遠方の方でも多くの方が参加できるような形ができてきたため、今後も日程なども工夫していきたい。

5 研修実施に係るまとめ、感想等

事業所が考えている以上に、介護職員の医療知識を学ぼうとする意欲は高いと考えられた。それは研修参加者数もそうだが、参加前の意欲も通常の研修よりも高く、ギリギリまで勤務の調整等も図り、参加していただけた方もいた。以前はアンケートで『介護職員の医療関係者に関する苦手意識や現状はなかなか変わらない』といったネガティブな意見も多かったが、参加者は継続して参加いただけている方が多く、講義の受講姿勢や講師への質問なども積極的で、複数年継続して、当事業を継続していくことの効果が出ていることが実感できた。ただ参加事業所の数・種別は地域や北海道全体でみた場合に、その割合はそれほど高いものではなく、まだまだ今後も当事業を継続し、まだまだ受講者も増やし、活動の幅やテーマの種類も広げていく必要があると考えられる。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	有限会社 四海堂
事業所名	檜山郡上ノ国町字大留 153 番地の 8
事業所の所在地	〒049-0612
サービス種類	檜山郡上ノ国町字上ノ国 274 番地の 1
事業所番号	0171600281

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
<p>【1回目】（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア 介護現場で働く人の障害予防 ～自分の運動機能について知る～</p> <p>【2回目】（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア 介護現場で働く人の障害予防 ～障害となっている事を学ぶ～</p> <p>【3回目】（イ）高齢者の運動機能の向上のためのケア 介護現場で働く人の障害予防</p>
開催日時
<p>【1回目】令和 5 年 9 月 9 日（土）13:30～15:00</p> <p>【2回目】令和 6 年 1 月 13 日（土）13:30～15:00</p> <p>【3回目】令和 6 年 3 月 2 日（土）13:30～15:00 開催予定</p>
開催場所
<p>【1回目】上ノ国町高齢者能力開発センター</p> <p>【2回目】上ノ国町高齢者能力開発センター</p> <p>【3回目】上ノ国町高齢者能力開発センター</p>
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
<p>【1回目】全 15 名 グループホームおだやか：施設長 1 名、管理者 2 名、介護従事者 4 名 グループホームのぞみ：施設長 1 名、管理者 2 名、介護従事者 2 名 ショートステイのぞみ大門：施設長 1 名、介護従事者 2 名</p> <p>【2回目】全 15 名 グループホームおだやか：施設長 1 名、管理者 2 名、介護従事者 4 名 グループホームのぞみ：施設長 1 名、管理者 1 名、介護従事者 3 名 ショートステイのぞみ大門：施設長 1 名、介護従事者 2 名</p> <p>【3回目】全 15 名（予定） グループホームおだやか：施設長 1 名、管理者 2 名、介護従事者 3 名 グループホームのぞみ：施設長 1 名、管理者 1 名、介護従事者 3 名 ショートステイのぞみ大門：施設長 1 名、介護従事者 3 名</p>

研修内容

【1回目】

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義「介護現場で働く人の障害予防 ～自分の運動機能について知る～」
- (2) グループワーク「メディカルチェック」

2 講師・指導者の所属職氏名

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 藤田 亮介 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 中島 和哉 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 古藤 大成 先生

【2回目】

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義「介護現場で働く人の障害予防 ～障害となっている事を学ぶ～」
- (2) グループワーク「メディカルチェック」

2 講師・指導者の所属職氏名

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 中島 和哉 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 古藤 大成 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 藤田 亮介 先生

【3回目】

1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。）

- (1) 講義
- (2) グループワーク「メディカルチェック」

2 講師・指導者の所属職氏名

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 古藤 大成 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 藤田 亮介 先生

医療法人社団 山樹会 平山医院 リハビリテーション課
理学療法士 中島 和哉 先生

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行されたことにより、今後は入居者様の外出や外泊の機会が増えると考えられる。その事に合わせて、安心・安全な日常生活支援および社会参加の確保についてより理解を深め、新しい生活様式の中での生活機能向上に向けた介護計画の立案と実践を目的とした研修を実施することにより、技術・知識の取得によるケアの向上を期待するところである。
研修のテーマ及びねらい
よりよい介護計画の立案と実践を目指し、まずは介護現場で働く職員自身が自身の身体機能や正しい体の使い方について理解をすることをねらいとする。
研修成果等
1 実施前の課題解決の有無等 より良いサービスを提供するためにも、介護職員自身の体調管理が重要であることの理解を得るという目的は果たすことが出来た。
2 実施による成果及び効果 メディカルチェックを行うことにより自身の身体的特徴を理解し、運動機能を数値化することで具体的な目標を設定し次への意欲にも繋がった様子があった。 「自分や相手の動きを知る事がケガの予防につながる」という知識を得ることができたため、痛みの発生を予測する力を付ける事が出来、予防に繋げることが出来るようになって来た。
3 今後の課題 基本的な痛みへの対応および予防については理解が深まってきたが、身体の変化に応じた段階的なサービスの見極め・判断については、まだ改善の余地がある。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

・引き続き、身体機能向上という課題に対して整形外科からの専門的なアプローチを学びたい。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

(苦労) ・研修当日の講師の体調や天候等によって実施日を変更せざるを得ないことがあるが、変更する場合には講師の都合を付ける事が難しい。 (工夫) ・延期の判断を早めに行う。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

メディカルチェックについて学び、回を重ねて実施して来た事により、職場全体として職員の自己管理意識が高まった事は労務管理の視点からも効果があったと言える。

また、自己管理意識が高まることがより良いサービスの提供に繋がるという意識が高まって来た様にも見える。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	株式会社光ハイツ・ヴェラス
事業所名	光ハイツ・ヴェラス月寒公園
事業所の所在地	〒062-0009 札幌市豊平区美園9条8丁目5-1
サービス種類	(介護予防) 特定施設入居者生活介護事業所
事業所番号	0170500425

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
1回目テーマ：認知症の基礎知識を学ぶ（ウ）（エ）
2回目テーマ：高齢者の疾患と認知症（ア）
3回目テーマ：拘縮予防と対策を学ぶ。（イ）
4回目テーマ：感染症予防について学ぶ。（ア）（オ）
5回目テーマ：高齢者の肺炎予防と口腔ケアを学ぶ（ア）（カ）
6回目テーマ：看取りケアを学ぶ。（キ）
7回目テーマ：高齢者の疾患と薬剤管理（ア）（ク）
開催日時
（第1回）令和5年8月16日 （第2回）令和5年9月20日 （第3回）令和5年10月4日 （第4回）令和5年10月18日 （第5回）令和5年11月22日 （第6回）令和5年12月27日 （第7回）令和6年2月21日
開催場所
光ハイツ・ヴェラス真駒内公園（第1回～第7回）
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
（第1回）15名 （介護士12名、看護師1名、管理職2名） （第2回）20名 （介護士13名、看護師2名、事務2名、管理職3名） （第3回）18名 （介護士15名、管理職2名、事務1名） （第4回）16名 （介護士11名、看護師1名、管理職3名、事務1名） （第5回）20名 （介護士15名、看護師2名、管理職2名、事務1名）

(第6回) 15名

(介護士11名、管理職2名、事務2名)

(第7回) 18名

(介護士13名、看護師2名、管理職2名、事務1名)

研修内容

【第1回】

(1)目的

高齢者の認知症に対する対応や課題をともに考える

(2) 講師

愛の家グループホーム石狩花川ホーム長：一條紀善氏

あずみ福祉カレッジ

札幌市西区琴似1条3丁目

(3)内容

講義「認知症ケアの理念と視点を学ぶ」

17時45分～19時15分(1時間30分)

【第2回】

(1)目的

高齢者の疾患と認知症の見極めの違いを考える。

(2) 講師

医師：川崎 君王氏

札幌外科記念病院

札幌市中央区南23条西15丁目1-30

(3)内容

講義「高齢者の疾患と認知症」

17時45分～19時30分(1時間45分)

【第3回】

(1)目的

起き上がりから移動・移乗動作まで、介助困難な方へのアプローチを学ぶ

(2) 講師

理学療法士：折戸 政幸氏

光ハイツ・ヴェラス真駒内公園

札幌市南区真駒内緑町1丁目1-1

(3)内容

講義「高齢者の拘縮予防とケアのかかわり」

17時45分～19時15分(1時間30分)

*弊社の職員が講師となったため、謝礼金の支給はせず。

【第4回】

(1)目的

5類となった新型コロナウイルスの現状を含め、感染対策の基本に戻って学ぶ。

(2) 講師

看護師：三原清美氏

あずみ福祉カレッジ

札幌市西区琴似1条3丁目

(3)内容

講義「ノロウイルス対策・新型コロナウイルス5類の対応」

17時45分～19時15分（1時間30分）

【第5回】

(1)目的

日々の口腔ケアや食事の援助の方法を学ぶ。

(2) 講師

歯科医師：斎藤ふく子氏

医療法人 天馬会

神奈川県横浜市中区長者町2-5-4

(3)内容

講義「高齢者の肺炎予防と口腔ケアを学ぶ」

17時45分～19時30分（1時間45分）

【第6回】

(1)目的

施設での看取り、家族を交えたチームワークケアについて学ぶ。

(2) 講師

看護師：三原清美氏

あずみ福祉カレッジ

札幌市西区琴似1条3丁目

(3)内容

講義「施設での看取りケアについて」

17時45分～19時30分（1時間45分）

【第7回】

(1)目的

誤薬防止システムについて学ぶ

(2) 講師

薬局長 芳賀 貴史 氏

メディカルファイブ(株)大通西薬局店
札幌市中央区大通西7丁目2番地

(3)内容

講義「高齢者の薬剤管理について」

17時45分～19時30分（1時間45分）

*各研修会終了後に代表参加者による伝達講習会を各施設にて実施をお願いし、2月29日をもってすべて終了しました。

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
新型コロナが5類になっても社内ではコロナ感染拡大防止対策の継続中という状況であり、研修の開催方法が課題となっていた。
研修のテーマ及びねらい
ご入居の皆様さらに高質なサービスを提供するため、基本から応用へと様々な研修内容をテーマを通じて、職員の質の向上を目指した。
研修成果等
1 実施前の課題解決の有無等 新型コロナウイルス感染も5類になったが引き続き、拡大防止対策のため、各施設の代表参加者が会場に集まり、その後伝達講習という形で、全員が学びあえるようにしました。
2 実施による成果及び効果 講師による対面での研修は、様々な視点での学びができ、新しい情報が職員にとって意識を更に向上させることができ、実施の成果を得ることができたと評価しています。
3 今後の課題 研修に参加することで、「介護の技術力を高め、同時に自信を持つことができる」ことを、全職員に意識してもらおう。その為開催方法の更なる工夫が課題となっています。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

全員参加の研修会をするために、何が出来るかを教員研修委員会で検討しました。オンラインを利用した研修会開催も含めて、来年度は更に研修内容の充実をめざし取り組んでいきます。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

多忙極める業務の中を、研修会に集うこと自体が厳しい面があります。また季節柄、悪天候になると遠方からの施設からの参加もなかなかできず、対面型のみの研修に限界があります。本来は全員参加の研修会をめざしたいところですが、各施設代表の参加での研修会を今年度も行いました。また、研修に参加する意義を、随時各施設の研修委員長から周知して頂いております。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

毎年そして毎月、研修会を定期的を開催することにより、職員全員が学ぶ姿勢と、常に成長しようという気持ちを持てるようになっています。その意識の改善から、職場内の雰囲気が変わり、前向きな気持ちを得ることができているので、今後も継続していきたいと思っております。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	(有) グッドライフ
事業所名	グループホームアウル登別館
事業所の所在地	〒059-0026 北海道登別市若山町3丁目8-45
サービス種類	地域密着型認知症対応型共同生活介護
事業所番号	0173501156

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
1回目（ア）高齢者の身体的特徴と疾患の理解
2回目（ア）高齢者の身体的特徴と疾患の理解
開催日時 1回目 令和5年9月16日
2回目 令和5年9月17日
開催場所 ・グループホームアウル登別館 ・デイサービスセンター
・グループホームしづく
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
(第1回) 32名 (介護従事者 29名 グループホーム管理者3名)
(第2回) 20名 (介護従事者 17名 グループホーム管理者2名)
研修内容
【第1回】
1 拘縮予防の基本及び、介護技術の基本を学ぶ (1) 演習 「事業所内での拘縮予防の基本及び介護技術についての実践」 (2) 講義 「介護における医療的知識及び介護技術の基本を学ぶ」
2 理学療法士 田中義行氏 株式会社エンゼルヘルプ 一般社団法人 日本介護技術協会 理事 東京都品川区東大井 5-8-12
公認心理師・看護師・介護福祉士 川上大悟 アイソトープグラウンド 神奈川県中郡二宮町山西 2 6 9
【第2回】
1 拘縮予防及び、介護技術の基本を学ぶ

(1) 演習 「事業所内での拘縮予防の基本及び介護技術の基本の実践」

2 理学療法士 田中義行氏

株式会社エンゼルヘルプ

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題

寝たきりの利用者の方の拘縮予防の方法や、座位時のポジショニングでの嚙下状態の改善、身体介護が困難な事例等、新人職員も多数居る中、研修を受けられない時期が長くあり、研
介護の質の向上が必要である。

研修のテーマ及びねらい

職員が拘縮の原因を理解し、拘縮予防を習得し、お互いがより安全で安楽な介護技術の学び
を図る。褥瘡の発症予防の習得を図る

研修成果等

1. 講義を行う事で、褥瘡予防の基本、皮膚に創傷治療の基礎知識を学ぶ事が出来、介護
技術の基本を学ぶ事で介護職員に共通する問題である腰痛対策も学ぶ事が出来た。昨年、参
加できなかった職員や新しく入社した職員が研修に参加した事で介護の質の向上と言う目
的は果たせた。

2. 実際の利用者へ日々行っている支援を見て頂くことで支援の改善点を見つける事が
出来、より良い支援方法、安全安楽な身体介護を習得する事が出来、日々支援方法に悩んで
いた事を解決する事が出来た。

3 今後の課題

演習、講義で学んだ事を実践し、日々変化していく状態に合わせた支援の継続していく事が
課題である。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

・事業所内の全職員参加できるように、勤務の調整、今回参加できなかった人が次回参加でき
るよう準備を行う。

・日々状態が変化していても、安全安楽で過ごして行けるよう。引き続き田中義行講師の
指導を受ける。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

(苦労) 人気講師の為、受講にあたっての日程調整

(工夫) 早めに講師へ依頼する

6 研修実施に係るまとめ、感想等

実際の利用者へ日々行っている支援を見て頂くことで、介護技術の未熟さを感じた。また、改善点を見つける事が出来、より良い支援方法、安全安楽な身体介護を習得する事が出来、日々支援方法に悩んでいた事を解決する事が出来た。実際の利用者さんをテーマにして実践できるので、参考書で学ぶものとは、全く違い、より良い学びとなりました。